

流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）ワクチンを接種される人へ

【対象者及び接種回数】

延岡市に住所を有し、住民基本台帳に登録されている人で、

1期 : 1歳以上2歳未満の人に1回

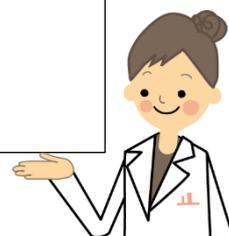
2期 : 5歳以上7歳未満であって、小学校入学前の1年間に1回

※既に流行性耳下腺炎に罹患したことがある人は対象外です。

※過去に流行性耳下腺炎の予防接種を受けたことがある人は既に接種した回数分の接種を受けたとみなします。

【自己負担金】

1回 2,600円



【病気の説明】

おたふくかぜは感染力の強いムンプスウイルスの感染によっておこる発熱と耳下腺の腫れを特徴とする病気です。耳下腺の腫れは痛みを伴うことから食欲がなくなります。ウイルスが全身の臓器や神経組織に入ると、無菌性髄膜炎や脳炎、難聴、精巣炎などの合併症をおこす可能性があり、特に難聴は聴力の回復は困難と言われており、おたふくかぜの合併症として最も警戒すべきものの一つです。保育所や幼稚園、小学校などの集団生活で感染する機会が多くなるため、集団生活を開始する前までにワクチンを接種することが望めます。

【ワクチンの説明】

おたふくかぜワクチンは生ワクチン（ウイルスの毒性を弱めて製剤化したもの）であり、皮下に注射します。副反応として、ワクチンを接種した部位の発赤や腫れ、おたふくかぜの様な症状（軽い発熱や耳下腺の腫れなど）が出るがありますが、数日で軽快します。重大な副反応としては、まれにアナフィラキシー様症状（じんましんや呼吸困難、血管浮腫など）や急性血小板減少性紫斑病があります。おたふくかぜワクチンに特異的な副反応として、接種後2～3週間後に発熱・頭痛・嘔吐などがみられた時はワクチンによる無菌性髄膜炎の可能性もあります。また、ワクチン接種による精巣炎や難聴は極めてまれです。

【問い合わせ先】

延岡市地域医療政策課

☎ 22-7066



次のページも必ずご覧ください



- (1) 予防接種を受けることができない方
- ① 明らかに発熱している方（通常は 37.5℃を超える場合）
 - ② 重い急性疾患にかかっている方
 - ③ このワクチンの成分によってアナフィラキシー（通常接種後 30 分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと）をおこしたことがある方
 - ④ 明らかに免疫機能に異常をきたす疾患を有する方及び免疫抑制をきたす治療を受けている方
 - ⑤ その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた方
- (2) 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない方
- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方
 - ② 過去に予防接種で接種後 2 日以内に発熱、全身性発しんなどのアレルギーを疑う症状がみられた方
 - ③ 過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方
 - ④ 過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方もしくは近親者に先天性免疫不全症の人がいる方
 - ⑤ このワクチンの成分に対してアレルギーをおこすおそれのある方
 - ⑥ 3～6か月以内に輸血およびガンマグロブリンの投与を受けた方
（輸血およびガンマグロブリン製剤中にムンプス抗体があると、ワクチンの増殖が抑制され、十分な効果が得られないおそれがあります。）
- (3) ワクチン接種後の注意
- ① 接種後 30 分間は、ショックやアナフィラキシーがおこることがありますので、医師とすぐ連絡がとれるようにしておきましょう。
 - ② 接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
 - ③ 接種後 1 週間は体調に注意しましょう。また、接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。
 - ④ このワクチンの接種後、生ワクチン（BCG・MR[麻しん・風しん]・水痘）接種する場合には、27 日間以上の間隔をあける必要があります。ただし、このワクチンは他のワクチンとの同時接種が可能ですので、同時接種を希望する場合には、医師にご相談ください。
 - ⑤ 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
 - ⑥ 接種当日は激しい運動はさけてください。その他はいつも通りの生活で結構です。
- (4) その他
- 任意予防接種のため、万が一この予防接種によって健康被害があった場合は、予防接種法による救済措置ではなく、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）の医薬品副作用被害救済制度によるものになります。法令による接種と比べて救済の対象や金額等が異なります。